

【別 紙】

平成30年7月9日

防衛省整備計画局

1 陸自オスプレイの佐賀空港配備に係る調整状況について

(1) 佐賀空港配備について

陸自が新たに導入するオスプレイは、従来の輸送ヘリコプターCH-47に比較して、巡航速度が速く、航続距離も長いことから、島嶼防衛に際して極めて有効な装備品であると考えています。

本年3月には、本格的な水陸両用作戦能力を有する水陸機動団を創設しており、水陸機動団と一体的に運用するオスプレイを配備し、島嶼防衛に万全を期すことが重要です。

陸自オスプレイの配備先については、水陸機動団の配備先である長崎県佐世保市に近接していること等を踏まえ、佐賀空港が最適であると判断し、平成26年7月から佐賀県に対して配備要請を行っています。

防衛省としては、陸自オスプレイを佐賀空港に配備させていただきたいとの考えに変わりはなく、引き続き佐賀県の皆様のご理解とご協力をいただけるよう丁寧な説明に努めてまいります。

(2) AH-64D事故について

本年2月に佐賀県で発生した目達原駐屯地所属のAH-64Dの事故後、「政府としてまずは徹底した原因究明と再発防止に全力を挙げる必要がある」との認識の下、防衛省として事故調査や被害者の方々への対応を最優先に取り組んできました。

その結果、事故原因が特定の部品に絞られるなど、AH-64D事故について一定の方向性が明らかになったため、5月28日に大野防衛大臣政務官が佐賀県をはじめ関係自治体に事故調査の状況をご説明したところです。

(3) 陸自オスプレイの安全性説明について

陸自オスプレイの安全性については、AH-64D事故の以前から、佐賀県から防衛省に対して説明するようご要請いただいている事項です。6月13日の佐賀県議会一般質問においても、山口佐賀県知事は「オスプレイの安全性の説明を求めているところであり、その説明について防衛省から申し入れがあれば県としてしっかりと対応することになるが、いずれにしてもオスプレイの安全性の説明時期については、防衛省が判断するものと考えている」と答弁されています。

防衛省としては、昨年8月に豪州で起きた米軍MV-22事故の調査結果が本年5月に公表されたこと等も踏まえ、現在、説明内容を検討しているところです。説明内容が整理された段階で、佐賀県に対して説明を申し入れることを予定していますが、現時点では説明時期について決まっておりません。

いずれにしても、防衛省としては、陸自オスプレイの安全性について佐賀県の皆様に丁寧にご説明し、ご理解をいただけるよう努力することが何よりも重要であると考えています。

2 陸自オスプレイの木更津駐屯地への暫定配備に関する報道について

陸自オスプレイについては、あくまで現時点の計画であり変更はあり得ますが、本年秋頃から順次我が国に輸送される予定です。

佐賀空港の施設整備には一定期間要する見込みであり、仮に佐賀県の実情が現時点で得られたとしても、陸自オスプレイの我が国への輸送時に間に合わせる事が極めて困難になっていることはこれまでも防衛省からご説明しているとおりです。

防衛省としては、佐賀空港における施設整備が完了するまでの間の陸自オスプレイの一時的な処置については、様々な選択肢を検討しているところであり、木更津市に暫定的に配備することを決定した事実はありません。